



2018 G10 ポストン・ニューヨーク研修報告特集号！！

平成 30 年度のポストン・ニューヨーク研修が、8 月 17 日～8 月 24 日の日程で行われました。全行程を通して天候も安定しており、安全で充実した研修を行うことができました。今年は例年にはない研修内容も盛り込まれ、密度の濃いものとなりました。今号では、この研修の一部をお伝えします。

① IDSS (INSTITUTE FOR DATA, SYSTEMS, AND SOCIETY) at MIT

今年はこれまでで初めてとなる IDSS の研究室訪問が実現し、研究内容についての講義を受けることができた。MIT の E18 号館にある IDSS の研究室において、MIT で行われている都市デザインの研究についての講義をいただいた。現代の都市計画について、テクノロジーを結集し、AI を駆使して研究されている機関である。しかし、それは単なるデータの収集と解析によるものではなく、多様性を抱えた社会が持つさまざまな膨大なニーズや意見を収集し、より多くの人々が快適に暮らすことができ、なおかつ生産性の高い都市をデザインすることが最大の目標となる。テクノロジカルな部分だけではなく、多種多様な立場の人々や団体とのコミュニケーションも不可欠となる。

こういった研究は、流通の仕組みの改善についても適用されている。例えば、ネットで注文された商品が、いかに効率よく分配されるかという問題がある。昨今では流通システムに限界がきていると言われている。しかし、こういった研究では、流通会社がどこに拠点を置けば、最も効率的、かつ円滑な流通システムを構築できるかが検討され、さらにそれを具現化するためのプログラムが開発されている。MIT では、圧倒的なテクノロジーの知見を持つ一方で、実社会のニーズに対応していくというスタンスが確立されている。単に実験や研究というものだけではなく、コミュニケーションを前提とした世界観の大きい研究活動がなされていると言える。

② Prof. Bryan Moser's Workshop at MIT

IDSS を訪問後、E51 号館 335 教室に移動して、Moser 教授に講義をいただいた。この教室はこれまでの研修では、MIT 生が実際に使う教室ということでキャンパスツアーで紹介を受けるだけのものではあったが、今回は幸運にもこの教室が講義の会場となった。通常の MIT の授業を受けているかのような雰囲気で行われた。

講演の本題に入る前に、MIT の歴史や学校の教育目標などについてお話をいただいた。”mind and hand”が校訓であり、これは知識だけにとどまらず、それをどのように活用し実用化していくかということが含まれているそうである。

そして毎年、研修生が大きな影響を受ける globalization についての講義である。飛行機のボーイング 787 を例にとり、機体のそれぞれの部分が世界のあらゆる場所、人たちによって考案され、改善され、製作されているかを知ることができた。飛行機ひとつをとっても、世界とのつながりなしには作ることができない。

グローバル化は、物事を複雑にするが、同時に物事を容易にしたり、より良くすることがあるというお話をいただいた。例えば、さまざまなバックグラウンドをもった人々がチームを組んで作業をすることで、成果が大きくなるという実験結果がある。多種多様な意見が出されることで、議論が複雑になることはあるが、出された結論は多くの視点を含むことになり結果的により良いものと言える。

また、local vs global という対立軸についてのお話をいただいた。この両者は対立しているように思われるがそうではなく、互いの local を主張しながら、coordination activity を経て構築されるのが、global である。

“If you become more global, you'll become more Japanese.” というメッセージが印象的でした。グローバルな視点を持つことによって、より日本を客観的に見ることになり、より自国理解が深まるということにな

る。グローバル社会に対応できる人材というのは、自己についての理解を前提として、他者の深い理解が前提になるとのお話をいただいた。

③ MIT's Plasma Science and Fusion Center (PSFC) (MIT プラズマ科学核融合センター)

今年も MIT の PSFC、「プラズマ科学核融合センター」の見学が実現した。昨年同様、同研究所で研究活動に従事している Creely 氏より解説をいただいた。クリーンエネルギーの開発とその必要性についての説明を受けながら、具体的なメカニズムについてもじっくり説明をいただいた。ヘルメット着用が必須であり、緊張しながら研究施設の中までじっくり見学をさせていただいた。まさに、最先端の研究の最前線という雰囲気でした。この研究所から世界へとさまざまな研究成果が発信されているわけです。

④ Harvard University Visit with Mr. Ethan Raker

MIT での活動を終え、最寄りのバス停からハーバード大学に向かった。現地キャンパスには、本年 6 月 1 日に本校で特別講演をしてくださった Ethan Raker 氏が待っていてくださった。ハーバード大学大学院博士課程に在籍し、学部生に授業を行なっている同氏によるキャンパスツアーは、在学生ならではの視点からのツアーとなり、特別なものとなった。まずは、ハーバード大学は、専門分野によってキャンパスが分かれるが、当日はメイン・キャンパスについての説明をいただいた。メイン・キャンパスは、昔からある Harvard Yard に加え、新しく加えられたキャンパス(New Yard)で構成されているというお話から始まった。Harvard Yard には、大学の事務施設や、1 年生の寮が点在しており、その説明も丁寧にしていただいた。また、ガイドブックには出てこない教会や施設についても解説をいただいた。また、例年訪れているワイドナー図書館についても解説をいただいた。地下に膨大な書庫があるが、そこに所蔵されているものについては、学生が直接取りに行くのではなく、司書に依頼をして参照するそうである。蔵書数は 300 万を超えるとのことであった。最後に、Raker 氏が現在研究活動をされている Science Center にも立ち寄り、キャンパスの雰囲気を堪能した。

⑤ Fieldwork in Boston

今年には派遣 1 期生が行った内容に戻り、午前中は全体行動でフリーダム・トレイルを歩き、アメリカ建国の歴史をしっかりと学ぶ骨太な内容になった。かなりの距離を歩くこととなったが、歴史を感じ、そしてボストンの素晴らしい街並みを堪能することができた。午後は 3 グループに分かれて、自主研修を実施したが、全グループが Museum of Fine Arts「ボストン美術館」を見学し、貴重な芸術作品を鑑賞した。モネ、ゴッホ、ゴーギャンといったヨーロッパの名画から、日本の快慶の弥勒菩薩立像、古代エジプトの壁画アートまで、世界の貴重な芸術資料が充実していた。今年には例年以上に、濃密なフィールドワークになった印象がある。

⑥ World Trade Center (WTC)

2001 年 9 月 11 日にアメリカで発生した同時多発テロ事件から 17 年。長い年月が経ったように思えるが、巻き込まれた人々の悲しみは続いている。現在の WTC には「National September 11 Memorial Museum」があり、さまざまな資料にあたることができるが、グローバル 10 の海外研修では、第 1 回目から、ボランティアの方々から実際に体験されたお話を聞いている。写真などを使って、克明に当時の状況などのお話を聞くうちに、平和の大切さを実感し、その実現に向けての思いが強くなる。今年はお話を聞きながら、涙する生徒もいたことが印象的であった。

⑦ **United Nations in New York**

マンハッタンにある国際連合本部を見学した。強風のため、国連のシンボリック存在である各国の旗の掲揚がなかったのは残念であった。厳重なセキュリティ・チェックがあり、緊張感した雰囲気が入館しました。ガイドの方の丁寧な説明を聞きながら、安全保障会議の議場など、ニュースでよく目にする議場を回りました。館内には紛争の様子を伝える展示などがあり、平和について考えられるものでした。また、理事会議場ビルの西側のスペースには、日本国際連合協会から寄贈された平和の鐘が置かれていて、神社風の日本の建築物が建てられていました。

⑧ **Wall Street** での研修

今年初の試みで、アメリカ金融市場の一線で活躍されている安岡佳一氏による講義を受けながら **Wall Street** を巡る、という研修を行った。安岡氏は、野村証券 NY やみずほ証券 USA、Prudential Insurance などでの重役を歴任された方で、現代アメリカ金融の歴史を目撃されてきた方でもある。まずは、**Wall Street** のランドマークでもある **Federal Hall** から講義が始まった。**Federal Hall** は、

1789年にアメリカ合衆国憲法の下にニューヨーク市が最初のアメリカ合衆国の首都となり、アメリカ合衆国議会最初の議事堂となった。第一回合衆国議会がこの議事堂で開催され、権利章典が採択された。そしてこの議会でジョージ・ワシントンが初代アメリカ合衆国大統領に選出され、この建物のバルコニーで就任演説が行われた。

他にも、**Wall Street** というのは、実は非常に短い通りであって、その通りの名を示すというよりは、そこに集中した金融機関や証券市場を集合的に示すことも教えていただいた。ニューヨーク証券取引所や **F R B** (ニューヨーク連邦準備銀行) の立場や機能について詳細な説明をいただいた。参加生徒からも積極的に質問がなされ、例年以上に同銀行についての理解が進んだ印象があった。

Wall Street を歩いた後、フードコートの前で、御用意いただいた資料をもとに、まさに現代アメリカの経済状況についての最前線についてお話をいただいた。アメリカと中国の関係性、現トランプ政権の真の狙いとマスコミの報道との乖離など、マスコミの情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に捉え、その裏にある真実を見極めることが重要であるとの御教示をいただいた。

今年から初めて行った研修であったが、生徒からもたくさんの質問があり、闊達な議論が行われたという点でも、成果の出た活動となった。

⑨ **Prof. Kazuo Tsuda’s Lecture at UNIS** (国際連合国際学校)

UNIS では、津田和男教授によりご講義をいただいた。同学校はマンハッタンの東海岸、イーストリバーを見下ろす見晴らしの素晴らしい場所にあり、今回はその図書館で講義が行われた。同校では国際バカロレアによる教育も行われており、ディスカッションやプレゼンテーションを重視した教育活動が行われています。授業は英語で行われ、日本語を含めたさまざまな言語を専攻することができるようになっている。先生との講義も、自分の意見を書いて、意見交換をしながら行うもので、通常の授業とは異なった緊張感がありました。先生のこれまでの研究成果などもお話いただきながら、3時間ほどじっくりと **Discussion** を行った。

今回は、私たちが訪問するということで、津田先生を慕う国連職員の藤村英範氏、東京大学大学院博士課程生、田村賢哉氏、小宮慎之介氏、井上洋希氏にも御参加いただき、グループ活動を行った。「主体的・対話的で深い学び」のまさに原点となる形式での講義をいただいた。

⑩ **Presentation at the ASPEN Institute**

研修の集大成ともいえるアスペン研究所でのプレゼンテーションが最終日に行われた。アスペン研究所の Danielle Baussan 氏, “Hunger Free America” の CEO である Joel Berg 氏という錚々たるエキスパートを

お迎えし、2グループに分かれて、食料問題についての提言プレゼンテーションを行った。各グループの提言内容は以下のとおり。

Group A Solution to food insecurity in Ethiopia

Group B How to solve malnutrition of obese people caused by poverty in Malaysia

時間のない中で最大限の準備をした生徒たちのプレゼンテーションは、まだまだ改善の余地があるものの、説得力のあるものであった。**Expert** たちからも高い評価をいただいたが、一方で鋭い指摘も数多くあった。提言におけるアイデアが実際に実施できるのか、といった実効性についての指摘などもあり、提言がさらに改善できる余地があることがわかった。全体的にプレゼンテーションの評価は高く、今後の提言がさらに良くなることを期待するといったお言葉をいただきました。今年には特に参加生徒の英語力が高いとの評価をいただいた。

発表者以外にも、パワーポイントで資料を作成したり、発表に合わせて映写したりなど、一人一人が役割をもちながらの発表であり。**Teamwork** がとても機能していた。内容については、これまでの発表の中でも、具体性があり、より身近な視点での提言が行えた印象がある。

*近日中に2階の掲示スペースにG10海外研修関連の報告を張り出します。
ぜひ、見てください！！*